『日葡辞書』と『和英語林集成』に於ける音象徴語

平　　弥　悠　紀

1　はじめに

日本語は，擬音語・擬態語の豊富な言語であると言われている。長い文章で説明しなくても，リズムのある簡潔な表現で，生き生きとリアルに描写できること，また，比較的簡単に造語できることから，益々増えていく傾向にあると思われる。

擬音語・擬態語について時代をさかのぼって調査するにあたり，過去の一時代に於けるその正確な形態及び実態を総合的に知ることのできる最初の文献は，撥音・促音・拗音・長音・濁音等を明確に記したキリシタン資料であろう。『日葡辞書』（1603年出版，1604年補遺の部）の中の擬音語・擬態語とその関連語については，今泉忠義氏が『日葡辞書の研究 語彙』（昭和43〔1968〕年，桜楓社）のP. 640～660にすべて挙げておられる。また，上代から現代までの擬音語・擬態語の形態の歴史的概観は鈴木〔森田〕雅子氏①（「語音結合の型より見た擬音語・擬容語―その歴史的推移について―」昭和28〔1953〕年，『國語と國文學』30―1）によってなさており，室町期のものについては，『日葡辞書』にでている型はすべて含めたうえで，キリシタン資料や抄物等を中心に当時の代表的な型について何種ぐらいあるかを調べておられる。

本稿では，『日葡辞書』の中の擬音語・擬態語（和語のみ）について，更に詳しく形態別に分類し，『和英語林集成』（第3版，1886年）及び現代語とも比較し，考察を加えたいと思う。

2　擬音語・擬態語の認定②

本稿では，それ自体，または「と」を伴って，状態の副詞として用いられるものを擬音語・擬態語として扱うつもりである。『日葡辞書』については，前述のように今泉氏が調べておられるが，その中には，擬音語・擬態語として認めるべきかどうか判断の難しい〔擬？〕の付された語や，動詞性接尾辞「―めかす・めく・つく・やく」等のついた派生語も含まれているので，先ず，いかなる語をそれと認定するか，すなわち，一般

語との境界線をどこに引くか，本稿に於ける基準を示そうと思う。

2—1　名詞の重複形

名詞の畳語形式のもので問題となるのは，それが副詞性をもつ場合である。『日葡辞書』③に次のような名詞の畳語がある。

Xiru. シル（汁）中に何か食物の入っている日本のスープ.

Xiruxiruto. シルシルト（しるしると）副詞．飯など物が柔らかなさま.

『邦訳 日葡辞書』では，概して，擬音語は「…音の形容」，擬態語は「…するさま.」と訳し分けられているようであるが，原本ではいずれも「Modo de …」（…のさま）である。

Yami. ヤミ（闇）暗黒，くらやみ.

Yamiyamito. ヤミヤミト（闇々と）副詞．くらがりで．¶また，理由も聞かず，何一つ認めもしないで．例，Yamiyamito vtçu, 1, corosu.（闇々と討つ，または，殺す）上のようにして殺す.

これらの名詞の畳語は，重複形という形態と副詞という機能の両面に於いて，擬態語と同じであり，「汁」の畳語「しるしる（と）」に比べると，「闇」の畳語「やみやみ（と）」（理由も聞かず，何一つ認めもしないで）は，もとの名詞とは意味的にかなりの違いがあり，擬態語として扱うことも可能かもしれないが，本稿では原則として，他の品詞の語をもとに形成されたと考えられる畳語形式のものは，擬音語・擬態語としないことにする。但し，語源をどこまで認めるかによって左右されることは否めない。

2—2　形容詞語幹の重複形

形容詞の語幹を重複させてできた「あらあらと」「あさあさと」及びそれらと語根を一にする語に次のようなものがある。

Arai. アライ（粗い）あらい（もの），あるいは，よく碾けていない（もの）．…

Arai. アライ（荒い）狂暴な，獰猛な，残忍な，…

Ara arato. アラアラト（あらあらと）副詞．戸を激しく，また，あわただしく叩くさま．¶Ara arato qizamu.（あらあらと刻む）物を大まかな断片に切る．…

Asai. アサイ（あさい）底が深くなくて，浅い（もの）．…

† Asai. アサイ（浅い）¶また，軽微な（もの），または，価値が低い（もの）.

Asamani. アサマニ（浅まに）副詞．軽くざっと，または，けなして．…

† Assarito. アッサリト（あつさりと）副詞．軽く，また，てきぱきと.

「あらあらと」は，他の擬態語と同様に「…さま」ではあるが，同一語幹の形容詞「粗い，荒い」が存在するので擬態語としない。「あさあさと」も同一語幹の形容詞「浅

い」があるので擬態語としないが，意味的には，「あらあらと」と「粗く，荒く」が同様であるのに対して，「あさあさと」と「浅く」では違っている。「浅く」では表現しきれない「軽く，てきぱきと」の意を「あさあさと」が担い，それが副詞的な用法に限定されるため，状態の副詞である擬音語・擬態語の形態からの類推により「あっさりと」が生まれたのではないだろうか。

2—3　「ＡンＢリ，ＡッＢリ」の形の語

「二拍語根＋り」の形の第一拍と第二拍の間に撥音・促音の挿入された「ＡンＢリ，ＡッＢリ」形式の語は，現代語でも「あんぐり，がっかり，…」のようによく使われるが，『日葡辞書』の中にもいくつか気になる語が含まれている。

Minzurito. ミンズリト（みんずりと）例，Minzurito xita agiuai.（みんずりとした味はひ）軽くてあっさりした，食物などの味．¶比喩．Minzurito xita fito.（みんずりとした人）素直で無邪気な人．

† Niccurito. ニックリト（につくりと）副詞．例，Niccurito monouo yŭ.（につくりと物を言ふ）人の気にさわるように話をする．

「みんずりと」は「水」を語源として，「にっくりと」は，「憎い」を語源として「Niccorito. ニッコリト（につこりと）」からの類推によって成立したのではないかとも私には思われるが，これらの語は，擬態語として扱うことにする。

2—4　動詞の重複形

動詞の畳語形式のもので問題となるのは，「Iqiiqito. イキイキト（生き生きと）」「Vomevometo. ヲメヲメト（臆め臆めと）」「Vozzuvozzu. ヲヅヲヅ（怖づ怖づ）」等，副詞として用いられ，「いかにも～としたようすだ」「ほんとうに～する感じだ」という意味を表すものである。現代では元の語との結び付きが意識されなくなり，アクセントが頭高型で漢字表記されなくなった語も含まれており，これらは擬態語として扱うことも可能であるが，当時のアクセント等明らかではないので，名詞や形容詞語幹の重複形の場合と同様に擬態語として扱わない。

2—5　一般の副詞と区別の難しい語

一般の副詞と擬音語・擬態語との区別のつけにくい語がいくつか存在する。

Chacuto. チャクト（ちやくと）副詞．すぐに，または，速やかに．

Chacuchacu. チャクチャク（ちやくちやく）副詞．急いで．

Chacurito. チャクリト（ちやくりと）副詞．速やかに．

「ちゃく」は漢語かもしれないが，「ちゃくりと」という形もあり，形態上は擬態語と区別がつかない。

‡ Chicchito. チッチト.（ちつちと）

Chito. チト（ちと）副詞. 少し.

† Chitchito. チッチト（ちつちと）副詞・少し，または軽く.

Chitochito. チトチト（ちとちと）副詞. ほんの少し.

Chitto. チット（ちつと）ほんの少し.

Chitto chito. チットチト（ちつとちと）同上.

「少し」は程度の副詞ではあるが，これらの中には数量的に少ないだけでなく，軽く何かの動作をしたり，少しずつの意である語もあるようで，重複形になったり促音が挿入されたりなど，形態が変わることによって程度の副詞から状態の副詞になるのか，更に実際の用例にあたって検討する必要があるので，本稿では擬音語・擬態語に含めないで措いておく。

また，一般の副詞と擬音語・擬態語としての用法の二つを兼ねている語もある。

† Fiŏfutto. ヒャウフット（ひやうふつと）副詞. いつも，普通に. ¶また，矢が目標にあたる時に立てる音の形容.

Fixito. ヒシト（ひしと）副詞. 全く，すっかり，または，わざと，効果的に. ¶Fixito vtçu.（ひしと打つ）激しく殴りつける，または，釘などを打ち込む. ¶また，大勢の人々が座敷（Zaxiqui）にぎっしり詰めているさま.

「ひゃうふっと」には，「いつも，普通に」の意の一般の副詞としての用法と，「矢が目標にあたる時に立てる音の形容」という擬音語としての用法の二つがあり，「ひしと」にも，「全く，すっかり，わざと，効果的に」の意の一般の副詞としての用法と，「大勢の人々が座敷にぎっしり詰めているさま」という擬態語としての用法の二つがある。これらは，同一形態の別語（二語）と考えて，一般の副詞として一例，擬音語・擬態語として一例とすべきかもしれないが，本稿では，「ひしと」も「ひゃうふっと」もそれぞれ一語として扱う。従って，統一するために，他資料で，同一形態の語で複数の見出しが立てられている場合には一語として数えることにする。

2—6　感動詞

擬音語は外界の音を模倣した言葉であると言えるが，更に，単なる音（無生物の音）を表した擬音語と，生物の声を表した擬声語とに分けることができる。[4] 一般に，感動詞は感情の直接の表現として叫び声に近いものであると言われているが，擬声語の中でも人間の声を表したものと明確に区別され得るのであろうか。『日葡辞書』の中で人間の声に関連した擬声語・擬態語には次のようなものがある。

Caracara. カラカラ（からから）副詞・大笑いするさま.

Caracarato. カラカラト（からからと）同上．…

Xicuxicu. シクシク（しくしく）副詞．例，Xicuxicuto naqu.（しくしくと泣く）かすかな声で静かに泣く．

Dotto. ドット（どつと）副詞．大勢の者が一緒に笑ったり，叫んだりするさま．…

Doppito. ドッピト（どつぴと）副詞．大騒ぎするさま．…

Rinrin. リンリン（りんりん）例，Rinrinto xite.（りんりんとして）物が生き生きとしているさま．¶また，声または楽器などが鳴りひびく形容．

Vatto. ワット（わつと）泣いたり，わめいたりする人の声．例，Vatto naqi saqebu.（わつと泣き叫ぶ）声高に泣き，わめき声を上げる．

Vappato. ワッパト（わつぱと）副詞．大声でわめいたり，やかましい音を立てたりなどするさま．…

Vayauayato. ワヤワヤト（わやわやと）副詞．大騒ぎするさま，または，騒音を立てるさま．

いずれも，笑い声，泣き声，叫び声等を表すというよりも，笑ったり，泣いたり，叫んだりしている様子や状態を象徴的に音声で表しており，擬態語であると考えられる。人間の声を表すものは全て感動詞が担っているとすれば，『日葡辞書』には擬声語はないことになる。また，感動詞も「Izaiza. イザイザ（いざいざ）さあさあ．では，さあ．」「† Yare. 1, Yareyare, & c. ヤレ．または，ヤレヤレ，など…¶また，喜ぶ人，又は，悲しむ人の発する感動詞．…」等畳語形式をとったり，擬音語・擬態語の語基に接尾辞「—めく」が付いて派生語を作るのと同様に，一拍の感動詞にも「うめく」「わめく」「おめく」のように「—めく」が付いたり⑤，擬音語・擬態語と明確には区別できない部分もあるが，一般に感動詞に属するものは，考察の対象にしないことにする。

3　擬音語・擬態語の形態

以上のような基準で『日葡辞書』の擬音語・擬態語を認定し，それと同時に『和英語林集成』の用例をも合わせて形態別に分類し，用例数及びパーセンテージを集計すると次表のようになる。更に，参考のために，現代語の用例を収録した『擬音語・擬態語の読本』（日向茂男監修，尚学図書編集，平成3〔1991〕年．小学館）についても示しておくが，この書は前二書とは性質が違っており，擬音語・擬態語ばかりを集めたものであるので，音声模写に近い語，すなわち辞書が見出し語として載せない語をも含んでおり，『日葡辞書』や『和英語林集成』と同レベルで比較することはできないのであるが，索引等活用⑥できるので用いた。

〔表1〕擬音語・擬態語の形態

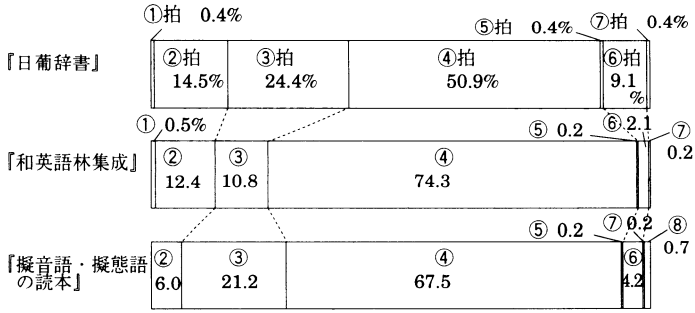
拍	形態	『日葡辞書』			『和英語林集成』			『擬音語・擬態語の読本』		
1	A	1(例)		0.4(%)	2(例)		0.5(%)	0(例)		0 (%)
2	Aン	4		1.5	5		1.1	12		1.4
	Aッ	13		4.7	24		5.5	29		3.5
	A—	5		1.8	5		1.1	2		0.2
	AA	2		0.7	0		0	2		0.2
	AA′	0		0	1		0.2	0		0
	AB	16		5.8	19		4.4	5		0.6
3	AンA	3		1.1	1		0.2	0		0
	AンB	3		1.1	1		0.2	0		0
	AッA	4			2			5		
	AッA′	2	28	10.2	0	7	1.6	0	8	1.0
	AッB	22			5			3		
	AA′ロ	1		0.4	0		0	0		0
	AAン	1		0.4	0		0	4		0.5
	AAッ	1		0.4	0		0	0		0
	ABッ	0		0	0		0	81		9.7
	ABリ	5			10			17		
	(Aラリ)	14			15			8		
	(Aリリ)	1	28	10.2	0	36	8.3	0	31	3.7
	(Aルリ)	3			4			4		
	(Aロリ)	5			7			2		
	ABロ	1		0.4	0		0	0		0
	ABン	1			2			28		
	(Aラン)	0	1	0.4	0	2	0.5	1	33	3.9
	(Aリン)	0			0			1		
	(Aロン)	0			0			3		
	ABB	0		0	0		0	3		0.4
	A—ン	0		0	0		0	6		0.7
	A—ッ	0		0	0		0	11		1.3
4	ABAB	61			134			256		
	(AンAン)	5			8			36		
	(AッAッ)	0			0			11		

	（A—A—）	1		41.5	9		50.0	35		50.8
	（AラAラ）	18	114		26	216		31	425	
	（AリAリ）	12			9			22		
	（AルAル）	4			6			9		
	（AレAレ）	0			0			1		
	（AロAロ）	10			20			24		
	ABA′B	3			4			0		
	AンAリ	1		0.4	0		0	0		0
	AンBリ	4		1.5	13		3.0	20		2.4
	AッBラ	0		0	2		0.5	3		0.4
	AッBリ	15		5.5	69		15.6	75		9.0
	AッBン	0		0	1		0.2	1		0.1
	ABリン	0		0.7	0		0	0		0.1
	（Aラリン）	1	2		0	0		0	1	
	（Aリリン）	1			0			0		
	（Aロリン）	0			0			1		
	A—B—	1		0.4	0		0	0		0
	A—Bッ	1		0.4	0		0	0		0
	ABCD	1	1	0.4	2	2	0.5	12	13	1.6
	（ABCン）	0			0			1		
	ABCB	1		0.4	13		4.1	15		2.2
	（AラCラ）	0	1		4	18		1	18	
	（AロCロ）	0			0			1		
	（AンCン）	0			1			1		
	ABンC	0		0	1		0.2	1		0.1
	AABC	0		0	1		0.2	0		0
	AA—ッ	0		0	0		0	1		0.1
	AB—ッ	0		0	0		0	1		0.1
	AB—ン	0		0	0		0	1		0.1
	ABBン	0		0	0		0	1		0.1
	ABBB	0		0	0		0	2		0.2
	AAAA	0		0	0		0	2		0.2
5	ABリCン（AロリCン）	0		0	1		0.2	0		0
	AンBCリ	0		0	0		0	1		0.1
	AッAッA	0		0	0		0	1		0.1

	その他	1	0.4	0	0	0	0
6	ＡＢンＡＢン	0	0	1	0.2	14	1.7
	Ａ―ＢＡ―Ｂ	0	0	0	0	0	0
	ＡＢ―ＡＢ―	0	0	0	0	1	0.1
	ＡッＢＡッＢ	2	0.7	1	0.2	4	0.5
	ＡンラＡンラ	0	0	0	0	1	0.1
	ＡＡ′ロＡＡ′ロ	1	0.4	0	0	0	0
	ＡＢラＡＢラ	0	0	1	0.2	2	0.2
	ＡＢリＡＢリ	1	7.3	2	0.5	5	0.8
	（ＡラリＡラリ）	14 } 20		0 } 2		2 } 7	
	（ＡルリＡルリ）	3		0		0	
	（ＡロリＡロリ）	2		0		0	
	ＡＢリＣＢリ	0	0	1	0.2	0	0
	（ＡラリＣラリ）	1	0.4	1	0.2	0	0
	ＡＢリＣＤリ（ＡラリＣルリ）	1	0.4	1	0.2	0	0
	ＡンＡラＡン	0	0	0	0	1	0.1
	ＡンＡロリン	0	0	0	0	1	0.1
	ＡッＢラＢン	0	0	0	0	1	0.1
	ＡッＢラＣン	0	0	1	0.2	1	0.1
	ＡッＢンＢン	0	0	0	0	1	0.1
	ＡＢＡッＡ―	0	0	0	0	1	0.1
7	ＡンＢンＣＤリ（ＡンＢンＣラリ）	0	0	1	0.2	0	0
	ＡッＢンＣＤリ（ＡッＢンＣロリ）	0	0	0	0	1	0.1
	ＡＢＡＢＣロロ	1	0.4	0	0	0	0
8	ＡッＢンＡッＢン	0	0	0	0	3	0.4
	ＡッＢリＡッＢリ	0	0	0	0	1	0.1
	ＡッＢラＣッＢラ	0	0	0	0	1	0.1
	ＡンＢリＣッＤリ	0	0	0	0	1	0.1
	合　計	275		435		836	

4―1　拍数

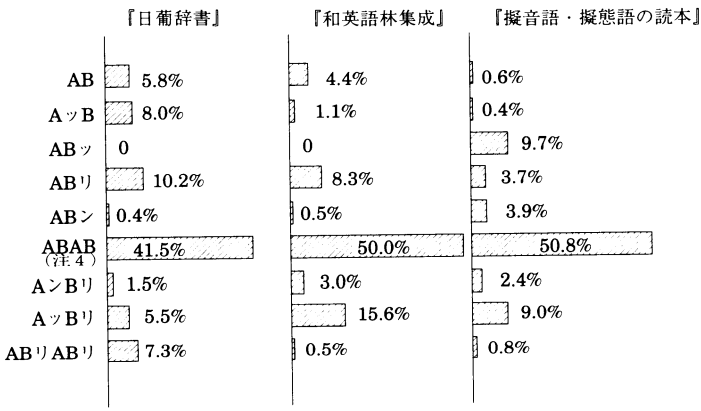
〔表1〕をもとに，それぞれの書に於ける擬音語・擬態語を拍数別にみてみる。



いずれに於いても4拍のものが一番多く，『日葡辞書』に比べると，その後のものはかなり増加しているといえるが，逆に2拍のものは減り，『擬音語・擬態語の読本』ではごく僅かである。また，『日葡辞書』では6拍語が他に比べていささか多い。

4―2　よく用いられる形態

本稿「3」の表から特徴的な形態のものを抜き出してみる。



『日葡辞書』で一番多いのは，「2拍語基の重複形(ＡＢＡＢ)」〔例，にこにこ，からから〕で41.5%，次いで「2拍語基＋り(ＡＢリ)」〔だらり，ぱらり〕と「2拍語基の中間に促音の挿入された形（ＡッＡ，ＡッＡ′，ＡッＢ)」〔ぱっぱ，どっぴ〕が共に10.2%となっている。そして，「2拍語基＋り，の重複形(ＡＢリＡＢリ)」〔ひらりひらり，ぐるりぐるり〕が7.3%と続く。

『和英語林集成』でも一番多いのは「2拍語基の重複形」で50%，「2拍語基＋り，の中間に促音の挿入された形(ＡッＢリ)」〔ばったり，しっとり〕が15.6%に増えたのに

対して，『日葡辞書』で多かった「ＡＢリＡＢリ」形式の語はほとんどないのが特徴的である。

『擬音語・擬態語の読本』でも他と同様に「２拍語基の重複形」が50.8%と一番多い。9.7%ではあるが，二番目に多い「２拍語基＋促音（ＡＢッ）」〔ぎくっ，どきっ〕の形の語は他の二書にはなかったもので，新しく生まれた形なのか，それとも，より口頭語的であったために辞書類には載録されなかったという資料性の違いによるものなのか，更に調べる必要がある。

４―３　語頭・語末の音節

語頭，語末の音節について，各音節ごとに用例数を示すと〔表２〕〔表３〕のようになっている。

〔表２〕語頭の音節の分布

『日葡辞書』

あ	1	い	1	う	7	え	0	お	1	10
か	9	き	6	く	3	け	2	こ	2	25
くゎ	3									
さ	8	し	7	す	7	せ	0	そ	5	27
た	6	ち	6	つ	3	て	0	と	7	24
								とぅ	2	
な	0	に	7	ぬ	3	ね	0	の	0	10
は	11	ひ	11	ふ	9	へ	4	ほ ほぅ	10 1	46
ま	1	み	1	む	8	め	4	も	0	14
や	0			ゆ	7			よ	2	9
ら	0	り	1	る	0	れ	0	ろ	1	2
わ	6									6
が ぐゎ	8 2	ぎ	1	ぐ	5	げ	0	ご	1	17
ざ	9	じ	1	ず	2	ぜ	0	ぞ	2	14
だ	7	ぢ	2	づ	5	で	0	ど どぅ	6 1	21
ば	7	び	7	ぶ	2	べ	2	ぼ	6	24
ぱ	4	ぴ	2	ぷ	0	ぺ	0	ぽ	3	9
きゃ	0			きゅ	0			きょ	0	0
しゃ	6			しゅ	0			しょ	0	6
ちゃ	4			ちゅ	0			ちょ	2	8

『和英語林集成』

あ	4	い	4	う	14	え	1	お	5	28
か	6	き	7	く	9	け	0	こ	8	32
くゎ	2									
さ	10	し	11	す	16	せ	1	そ	8	46
た	6	ち	7	つ	9	て	3	と	7	32
な	0	に	3	ぬ	5	ね	1	の	11	20
は	6	ひ	15	ふ	12	へ	3	ほ	11	47
ま	5	み	0	む	14	め	1	も	2	22
や	0			ゆ	5			よ	3	8
ら	0	り	0	る	0	れ	0	ろ	0	0
わ	4									4
が	11	ぎ	6	ぐ	11	げ	1	ご	6	35
ざ	7	じ	7	ず	16	ぜ	2	ぞ	4	36
だ	2					で	1	ど	14	17
ば	7	び	8	ぶ	5	べ	4	ぼ	10	34
ぱ	9	び	6	ぷ	2	べ	1	ぽ	15	33
きゃ	1			きゅ	0			きょ	3	4
しゃ	4			しゅ	0			しょ	2	6
ちゃ	3			ちゅ	0			ちょ	10	13

						ちゃう	2	
にゃ	0		にゅ	0		にょ	1	1
ひゃ	0		ひゅ	0		ひょ ひゃう	0 2	2
ぎゃ	0		ぎゅ	0		ぎょ	0	0
じゃ	0		じゅ	0		じょ	0	0
ぴゃ	0		ぴゅ	0		ぴょ	0	0
	92	53		61	12		57	275

にゃ	1		にゅ	0		にょ	4	5
ひゃ	0		ひゅ	0		ひょ	6	6
ぎゃ	0		ぎゅ	0		ぎょ	1	1
じゃ	2		じゅ	0		じょ	1	3
ぴゃ	0		ぴゅ	0		ぴょ	3	3
	90	74		118	19		134	435

〔表3〕語末の音節の分布

『日葡辞書』

あ	0	い	1	う	0	え	0	お	1	2
か	5	き	5	く	7	け	0	こ	3	20
さ	6	し	9	す	0	せ	0	そ	1	16
た	16	ち	5	つ	4	て	0	と	7	32
な	2	に	0	ぬ	0	ね	0	の	1	3
は	4	ひ	0	ふ	0	へ	0	ほ	0	4
ま	0	み	0	む	0	め	1	も	0	1
や	1			ゆ	0			よ	4	5
ら	18	り	83	る	4	れ	0	ろ	14	119
わ	0									0
が	0	ぎ	0	ぐ	0	げ	0	ご	1	1
ざ	2	じ	1	ず	3	ぜ	0	ぞ	2	8
だ	1	ぢ	1	づ	0	で	0	ど	1	3
ば	2	び	1	ぶ	9	べ	0	ぼ	2	14
ぱ	7	ぴ	1	ぷ	1	ぺ	0	ぽ	1	10
しゃ	0			しゅ	0			しょ	0	0
ちゃ	1			ちゅ	0			ちょ	0	1
にゃ	0			にゅ	0			にょ	0	0
	65		107		28		1		38	239
撥音	13									13
促音	15									15
長音	7									7
O	1									1
										275

『和英語林集成』

あ	0	い	8	う	0	え	0	お	1	9
か	10	き	9	く	10	け	2	こ	9	40
さ	13	し	4	す	2	せ	0	そ	6	25
た	17	ち	6	つ	8	て	2	と	5	38
な	3	に	0	ぬ	0	ね	1	の	1	5
は	0	ひ	0	ふ	0	へ	0	ほ	0	0
ま	0	み	2	む	0	め	3	も	0	5
や	5			ゆ	0			よ	4	9
ら	33	り	133	る	6	れ	0	ろ	20	192
わ	3									3
が	0	ぎ	0	ぐ	1	げ	0	ご	4	5
ざ	5	じ	6	ず	3	ぜ	0	ぞ	1	15
だ	0					で	0	ど	6	6
ば	3	び	1	ぶ	4	べ	2	ぼ	3	13
ぱ	3	ぴ	0	ぷ	0	ぺ	0	ぽ	1	4
しゃ	2			しゅ	0			しょ	1	3
ちゃ	4			ちゅ	0			ちょ	0	4
にゃ	1			にゅ	0			にょ	0	1
	102		169		34		10		62	377
撥音	18									18
促音	24									24
長音	14									14
O	2									2
										435

『擬音語・擬態語の読本』（P. 306）によると，同書に収録されている擬音語・擬態語

の語頭に立つ音節（派生する濁音・半濁音を含む）は，多い順に，

は行（29%）—か行（24%）—さ行（16%）—た行（13%）

語末の音節（促音っ，拗音の末尾ゃょも含む）は，

り（18%）—っ（16%）—ん（14%）

となっているそうである。〔表２〕〔表３〕に基づいて，『日葡辞書』『和英語林集成』について多い順に挙げると，次のようになっている。

〔語頭〕

順位	『日葡辞書』	%	『和英語林集成』	%
1	は行	29.5	は行	28.3
2	た行	19.3	さ行	20.9
3	さ行	17.1	か行	16.6
4	か行	15.3	た行	14.3

〔語末〕

順位	『日葡辞書』	%	『和英語林集成』	%
1	り	30.2	り	30.6
2	ら	6.5	ら	7.6
3	た	5.8	っ	5.5
4	っ	5.5	ろ	4.6
5	ろ	5.1	ん	4.1
6	ん	4.7	た	3.9

語順の音節は，『日葡辞書』『和英語林集成』共に，か行音がいささか少ないようではあるが，『擬音語・擬態語の読本』と同じようである。一方，語末の音節は，「り」が圧倒的に多く，30%ぐらいを占めており，これに「ら，る，れ，ろ」を加えると，『日葡辞書』では43.3%，『和英語林集成』では44.1%が，ら音で終わる語である。辞書であるがゆえに，擬音語・擬態語の典型的な形態であるこれらの語が多く収められたのかもしれない。

5　結び

『日葡辞書』と『和英語林集成』の擬音語・擬態語の形態について調べたが，その認定にあたっては，本稿に於ける基準を立てたものの，一般語との境界線上にある語についてはどう扱うべきか非常に難しく，再検討の必要があると思う。また，辞書の記述のみをもとにしたので，個々の語について，同時代の他の文献によって実際の用法を調べていかなければならないであろう。『日葡辞書』と『和英語林集成』を比較したことについても，両者の間に260年以上の隔たりがあるので，他の資料によって，間の時代のものについて，今後補っていきたいと考えている。

注

① 鈴木雅子氏「〈資料１〉擬声語・擬態語一覧」（昭和48〔1973〕年，明治書院。『品詞別 日本文法講座10 品詞論の周辺』），「６ 擬声語・擬音語・擬態語」（昭和59〔1984〕年，明治書院。『研

究資料日本文法④ 修飾句 独立句 編 副　詞・連体詞 接続詞・感動詞」）参照。

② 『擬声語・擬態語辞典』（天沼寧編，昭和49〔1974〕年，東京堂出版）参照。

③ 『邦訳 日葡辞書』（土井忠生・森田武・長南実編訳，昭和55〔1980〕年，岩波書店）を使用する。

④ 『擬声語・擬態語辞典』（浅野鶴子編，金田一春彦解説，昭和53〔1978〕年，角川書店）参照。

⑤ 柳田国男氏「国語の将来」（昭和14〔1939〕年，『国語院雑誌』）参照。

⑥ 用例については巻末の索引を利用し，『日葡辞書』に於ける認定の基準との統一をはかるため，「うきうき，おずおず，かすかす，しばしば，しみじみ，ずたずた，すれすれ，なみなみ，のろのろ，ぬけぬけ，ゆるゆる，ちょっぴり，ぞっこん」の13語をはずし，合計836語によって調べた。

⑦ ＡＢＡ′Ｂの語も含める。